

義太夫

「法人化」五十周年を迎えて

義太夫協会会長 原道生

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

既に前号の『会報』でもお知らせしましたように、今年令和二年、義太夫協会は、法人化五十周年を迎えることになりました。そのため、現在、協会では、公演部の竹本越孝さんを中心とする企画委員会を設置して、六月二八日（日）に国立演芸場で記念公演を行うことを始めとし、五十周年に因んだ幾つかの計画案につき、検討を重ねているところです。

ところで、今から五十年前の昭和四五年六月に、協会念願の「法人化」が実現されるに至った際の具体的経緯に関しては、古くからの会員の中にはご存じの方もおいででしょうが、一方、私を含めて、あまりよくは知らないという向きも多くおられるのではないのでしょうか。

今回、私は、右の「法人化」の当時から以後も永らく協会の運営に関与してこられた故竹本綾太夫師が丹念に書き留められた諸資料を、水野悠子氏の御厚意で拝見し、深い感銘を受けますとともに、不十分ながらも、当期における事態の流れの概略を何とか把握できたように思われますので、以下、御参考までに、その折の主要な事柄をごくかいつまんで、御紹介しておくことに致します。

右の綾太夫師の記録に従えば、現在の「義太夫協会」の直接的な前身となるものは、三年九月に、江戸時代以来の流れを汲む、伝統的な演奏者たちの組合組織ともいえるべき「義太夫因協会」が、戦後「義太夫教室」などを主催していた研究団体「義太夫協会」と合併して、新しく発足させた「義太夫協会」であったと考えてよいようです。もっとも、その時点での新生「義太夫協会」は、まだ法人格を持たない任意団体であったために、公的な地位も低く、何かと期待に反する点もあったらしいので、早い頃から「社団法人化」を望む声も出されていたことですが、他

義太夫協会会報 第110号

令和2年1月1日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町 3-1-6

日本橋永谷ビル 210

Tel. 03 (6265) 1880

Fax. 03 (6265) 1881

<http://www.gidayu.or.jp>

方、そのためには五百万円ともいわれる設立基金の準備が必要とのことなどを考えれば、時期尚早との慎重論も多く、当分見送りという状態が続いていたとのことでした。

けれども、そうした状況の中で、三九年四月に豊澤仙廣師が副会長に就任されたことを契機に「法人化」への動きが一気に表面化し、以後数年間の粘り強い努力の末に、四五年六月、東京都より正式に「社団法人」としての認可がおりることにより、ようやく「法人化」への夢が実現されたという経緯がその実態だったと考えられてよいようです（なおその後の法改正で、現在では「一般社団法人（一社）」となっています）。因みに、右の過程において見られた仙廣師の活動ぶりは目ざましく、関係諸方面への精力的な働きかけはもとより、問題の基金の件に関しても、まず御自身が百万円を拠出された他、多くの方々からも浄財をお寄せいただいたことにより、総計五百三十万円余という予定を大きく上回る資金の調達を果たされたとのことでした。

以上、こうした諸事情を知るにつけ、まず私は、仙廣師御自身の人並外れた先見性、企画力、行動力、組織力等々は勿論、そのことに協力を惜しまれなかった先人たちに対して敬意と感謝の念を禁じることができません。それにまた、その後の五十年、綾太夫師を始めとする何人もの事務担当の方々が、常に協会諸事業の円滑な運営に尽してこられた多くの努力に対しても、この機に、心からの謝意を表したいと思えます。



交付式にて、文化庁長官・宮田亮平氏（左）とともに
認定書を掲げる葵太夫

祝！ 葵太夫 人間国宝認定

令和元年七月十九日、文化審議会が重要無形文化財各個認定の保持者（人間国宝）として、「歌舞伎音楽竹本」の竹本葵太夫ら七名を認定するよう、文部科学相に答申し、十一月十三日に、認定書交付式が執り行われました。歌舞伎竹本としては、昭和五三年に故・竹本雛太夫が認定されて以来、二人目の認定です。また、国立劇場の伝統芸能伝承者養成研修の修了生として、初めての人間国宝となりました。「歌舞伎音楽竹本」は、雛太夫の逝去に伴い重要無形文化財指定を外れていましたが、

今回改めて指定するとともに、葵太夫がその保持者として認定されました。文化審議会答申の解説文では、葵太夫の経歴・功績を列挙した上で、「歌舞伎音楽竹本の技法を正しく体得し、かつ、これに精通しているとともに、その技法を高度に体现している」と述べています。

葵太夫は高校時代に女流義太夫の故・竹本越道に義太夫の手ほどきを受けたことから、義太夫協会の事業にも尽力し、現在は理事も務めています。今回の人間国宝認定は、協会としても誠に喜ばしい出来事であり、今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

竹本葵太夫 たけもと あおいだゆう

本名 柳瀬信吾 やなせ しんご

生年月日 昭和三五年十一月十日

出身 東京都大島町

昭和五一年八月 竹本越道に入門

昭和五四年七月 初代竹本扇太夫から、扇太夫の前名の竹本葵太夫を二代目として許され、国立劇場『仮名手本忠臣蔵』五段目で初舞台。

昭和五五年三月 国立劇場第三期竹本研修修了。竹本の一員となる。以後、初代竹本扇太夫、初代竹本藤太夫、初代豊澤瑩緑、初代鶴澤英治、初代豊澤重松、文楽の九代竹本源太夫らに師事。

昭和五八年 第四回松尾芸能賞新人賞

昭和六二年 第三七回芸術選奨文部大臣新人賞

平成十三年 重要無形文化財「歌舞伎」（総合認定）保持者

平成十七年 国立劇場伝統芸能伝承者養成「歌舞伎

音楽（竹本）「歌舞伎俳優」研修講師（現在に至る）

平成二五年 一般社団法人義太夫協会理事（現在に至る）

平成二七年 一般社団法人伝統歌舞伎保存会理事（現在に至る）

平成二九年 竹本協会代表理事（現在に至る）、第三十七回伝統文化ポラ賞優秀賞

人間国宝対談

竹本駒之助×竹本葵太夫

（令和元年十一月七日 竹本駒之助稽古場にて）

駒之助（以下、「駒」）…このたびはおめでとうございます。

葵太夫（以下、「葵」）…今日はありがとうございます。今回、義太夫協会の会報に対談記事を書きたいと思うけれども、どなたと対談してみたいですか。訊かれました、やはりこういう機会にお師匠さんと対談させていただきたいと思っています。

駒…勿体ないことだと思います。

葵…常々私思っておりますのは、義太夫の太夫つてものは、お相撲と一緒にして、心技体というんですか、心と技と体というものが大事だと思っております。お師匠さんの舞台を拝聴しておりますといつてもその三つが備わってらっしゃるなっていうことを…

駒…恥ずかしいそんな（笑）。

葵…しかもこう申し上げては失礼ですけども、

「高齡にもかかわらずそういう衰えがないというのが不思議なんですけれども。」

葵…衰えてます衰えてます。

葵…いえいえ。健康の秘訣と申しますか、前にもちよこつとは伺ったことがあるんですけれども、毎朝日課にしていられしやる事がおありだっておっしゃってました。

駒…毎朝お水を一杯飲んで、そのあと蜂蜜を一さじ舐めています。

葵…そうですか。やはり食べ物なんかに気を付けていらつしやいますか。

駒…食べ物はあんまり刺激のあるものは避けるようにしてますが、たいてい何でもいただくようにしています。

葵…お酒は召し上がりますか。

駒…お酒は一切ダメ。おたくはお飲みになるの？

葵…私は好きでして、たくさんはいただけないんですけども、毎晩いただきます。

駒…それはいいことですよね。

葵…お休みになるのはいつも何時頃ですか。

駒…寝るのはけっこう遅く、十二時くらいになつてしまつて。朝五時くらいに起きて、必ずなんでもいいから師匠のテープをいっぺん聴かせていただくように、それは心がけてるんです。

葵…越路太夫師匠の録音を。朝早くお起きになつて。

駒…ええ、なんであろうと。師匠が亡くなつていたので、後退していくということが一番怖いことで、前進はなかなかできない。

葵…越路師匠の録音は、一般に放送されたものやレコードのほかにもあるのでしょうか。

駒…師匠もいろいろにやっているのですが、お稽古が決まった時にはご自身でいろいろと聴いてみて、「これを渡しとく」つて言つて師匠の一番お気に召している録音をくださる。

葵…教えてくださる側もそれだけ準備がいるということ。

編集部…人間国宝になられて、後進の指導のほうも今までとお考えが変わつてらつしやつたということがありますでしょうか。

葵…それはもう余計責任を感じております。お師匠さんは、認定をお受けになつて何年経たれましたか。

駒…二十三年になります。お電話いただいた時にびっくりして、「ちよつと待つてくだささい、師匠に相談してきますので」つて。「いや師匠じゃないです、あなたのことです」つて言われたんですけど。師匠のところに行つて、ご相談しましたら、「そうか、そしたらここからすぐに返事なさい」つて。そちらはどうでした？

葵…私は夜、外で飲んでまして、携帯にかかつてきまして、文化庁から。私はほんとに自分が未熟で若輩でありますから、ご辞退すべきなんでしょうけれども、考えてみますと雛太夫師匠が亡くなつてから四十年、私がお断りしたらまた当分、竹本という仕事に認めていただけなくなつてしまうか

もしれないので、業界のためもありますし、謹んでお受けいたしました。その時に、今お酒を飲んでますから、と念を押しましたら、明くる朝もういっぺん確認の電話が来ました…。

駒…そうですか（笑）。そりやもう当然お受けなさるべきことで、本当におめでとうございます。お元気で活躍ください。あまりお酒たくさん飲まないで、適量で。

葵…はい、適量で。



竹本駒之助 たけもと こまのすけ

淡路島出身。昭和二十四年、大阪にて竹本春駒に入門。文楽の諸師匠方に師事。昭和二十七年、二代鶴澤三生を相三味線に東京で演奏活動を始める。昭和二十八年、豊竹つばめ太夫（のちの四代竹本越路太夫）に師事。昭和四五年、四代竹本越路太夫の女性唯一の門人となる。

平成八年度、第二六回モービル音楽賞受賞。平成十一年、重要無形文化財「義太夫節浄瑠璃」個人指定保持者（人間国宝）認定。平成十五年、紫綬褒章受章。平成二十年、旭日小綬章受章。平成二十九年、文化功労者に選出。義太夫節保存会会長。（二社）義太夫協会理事。

祝！ポ－ラ賞

令和元年度 第三九回 伝統文化ポ－ラ賞は、女流義太夫関係より二名の受賞者という、大変おめでたい回となりました。

竹本越孝（写真右）は優秀賞を、女流義太夫研究家の水野悠子氏（同左）は地域賞を受賞、さる十月二十九日にグランドプリンスホテル高輪にて贈呈式と懇親会が行われました。

越孝の受賞理由は『女流義太夫節の伝承・振興』で、「酒屋の段」での人物像の的確な語り分けが注目され、「祇園一力茶屋の段」の掛合いの寺岡平右衛門や、「すしやの段」での無頼漢いがみの権太の語り等が評価されたそうです。

水野悠子氏の受賞理由は『女流義太夫の研究・振興』。平成五年まで当協会で二十年間にわたり事務局員として勤務し、女流義太夫を舞台裏で支えてこられました。その後『演芸資料選書・七 娘義太夫―人名録とその寄席―』『江戸東京 娘義太夫の歴史』を出版。現在も女流義太夫公演の解説や講演等で活躍



されており、献身的な活動、記録を続けてきた功績が評価されたそうです。

第七二期義太夫教室

第七二期義太夫教室は、昨年八月十日の一日体験教室（語り・竹本越若、三味線・鶴澤寛也）を経て九月七日に実践コースが始まりました（語り・竹本越若・竹本越京、三味線・鶴澤寛也）。現在は三月二一日の卒業発表会に向け、お稽古を重ねています。今回は発表会の日に修了式も行うという異例のスケジュール。卒業演奏を終えたばかりの修了式、雰囲気も格別なものになるのではないのでしょうか。

文化芸術による子供育成総合事業

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業」、今年度は義太夫協会により二種の公演が行われました（制作・有限会社古典空間）。

まず、三年目を迎えた「語ってみよう、義太夫節！」（越京・京之助・寿々女、三寿々・賀寿・弥々）。「戻り橋」と「車曳」を中心に、義太夫節に変身した校歌を楽しんだり、代表の児童・生徒が衣装を着けて発表する語りを応援したり、全校一丸となって口上に取り組んだり。あつという間の九十分は各校で大好評でした。もう一種は「三味線ナビ」（津賀榮・賀寿）。三線・長唄・義太夫・津軽、四種の楽器の比較や合奏などを楽しむ画期的な公演です。両者とも来年度も採択が決定しました。より良い公演をお届けできるよう、関係者一同さらなる努力を重ねて行きたいと思っております。

糸あやつり一糸座巡回公演



令和元年十一月四日から二日までの本公演、そして十二月八日から十三日までの追加公演で、糸あやつり人形一糸座とともに「文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演に

参加しました。和歌山に始まり、大阪、奈良、滋賀、三重の小学校、中学校をバスで移動しながら訪問していく旅でした。

演目は「東海道中膝栗毛」「橋弁慶」「お七」の三つ、特に「東海道中膝栗毛」は詞（ことば）を人形遣いが担当し、結城一糸さんの軽妙な口調が小学生にも好評でした。何はともあれ、四百年も続く糸あやつり人形を実際に見られること、また何人かの児童、生徒が実際に人形を持ち、参加することは、貴重な体験に間違いなく感じました。

（鶴澤津賀榮）

■協会・正会員の主な動き■

令和元年七月～令和元年十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

七月二十日(土) お江戸日本橋亭

八月十九日(月) 国立演芸場 ※若手勉強会

九月二十日(金) お江戸日本橋亭

十月二十日(日) お江戸日本橋亭

十一月二十日(水) お江戸日本橋亭

十二月十四日(土) 紀尾井小ホール

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演(*印)

「じよぎ」 お江戸上野広小路亭 七月一・

二日、九月一・二日、十一月一・二日

「ぎだゆう座」 お江戸上野広小路亭

八月一・二日、十月一・二日、十二月一・

二日

「女流義太夫スペシャルライブ vol.9」八月

九日(月)、十日(火)、十一日(水) 神

楽坂ザ・グリ

「江戸の粋に遊ぶ その三九 女流義太夫」八

月二四日(土) 東海道かわさき宿交流館*

「女流義太夫 悲嘆と憤怒」九月二三(月)

祝 浅草公会堂第二集会室

「第十四回花のように香れ 女流義太夫」九

月二七日(金) 蕨市立文化ホールくるる*

「カナガワ リ・古典プロジェクト」秦野

十月二十日(日) 秦野市文化会館

「竹本駒之助南あわじ市公演」十一月三日
(日) 淡路人形座

「第十二回竹本土佐恵の会」十一月九日(土)

内幸町ホール

「第三回女流義太夫と上方舞の会」十一月二

七日(水) 橋楽亭

「義太夫ひとつの試みその二」十二月二三

(月) お江戸日本橋亭

【普及】

義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室

八月三日(土) 豊川稲荷文化会館

講師 竹本越若・鶴澤寛也

◆義太夫三味線一日体験特別編

八月十日(土) 豊川稲荷文化会館

講師 鶴澤津賀寿・鶴澤三寿々・竹本越孝

文化庁委託事業義太夫教室

◆第七二期義太夫教室実践コース(前期)

九月七日～十二月二八日(各土曜日)

豊川稲荷文化会館

講師 竹本越若・竹本越京・鶴澤寛也

依頼事業

◆学校巡回公演・文化庁主催

「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公

演事業―」(制作・古典空間)

「語ってみよう! 義太夫節」

事前ワークショップと本公演・全五校

《本公演》

十月七日(月) 星槎もみじ中学校

八日(火) 札幌市立月寒東小学校

二日(月) 八峰町八峰中学校

二四日(木) 花巻市立太田小学校

二五日(金) 栗原市立栗駒中学校

「三味線ナビ」本公演全四校

十二月三日(火) 新居浜市立南中学校

四日(水) 西条市立吉井小学校

五日(木) 香川県立香川西部養護学校

六日(金) 宿毛市立山奈小学校

【その他事業】

◆床本・稽古本即売会 九月二八日(土)

豊川稲荷文化会館

◆祖先祭 十月十四日(月祝) 回向院

【運営】

義太夫協会法人化五十周年記念公演企画会議

第二回 五月二十日(月)

第三回 七月二二日(月)

第四回 九月二六日(木)

【放送・放映】

◆NHK FMラジオ「邦楽のひとつとき」

七月十日(水)『国性爺合戦』楼門の段

浄瑠璃…竹本越孝 三味線…鶴澤三寿々

九月十八日(水)『迎駕籠野中井戸』聚楽町の

段 浄瑠璃…竹本土佐恵 三味線…鶴澤駒

清

十一月十三日(水)『太平記忠臣講釈』喜内住家の段 浄瑠璃・竹本土佐子 三味線・鶴澤津賀花

◆NHK FMラジオ「邦楽百番」
七月二十七日(土)『姫山姥』

浄瑠璃・竹本駒之助
三味線・鶴澤津賀寿 ツレ・鶴澤寛也

■協会・正会員の今後の動き■

令和二年一月～六月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二十日(月) お江戸日本橋亭

二月二十四日(月祝) 紀尾井小ホール

三月二十日(金) お江戸日本橋亭

※第三九回伝承者研修発表会

四月二十日(月) お江戸日本橋亭

五月二十日(水) お江戸日本橋亭

六月二十八日(日) 国立演芸場

※法人化五十周年記念公演

「本牧亭を聴く会」(お話と音源再生)

四月三十日(木) お江戸日本橋亭

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演(*印)

「ぎだゆう座」 お江戸上野広小路亭 二月

一・二日、四月一・二日、六月一・二日

「じよぎ」 お江戸上野広小路亭 三月一・

二日、五月一・二日

「女流義太夫演奏会」語りの至芸竹本駒之助
三月七日(土) 横須賀芸術劇場ベイサイドポケット

「第十五回花のように香れ 女流義太夫」三月

月一四日(土) 蔵市立文化ホールくるる*
「第四回女流義太夫瑠璃の会」三月一五日(日)

国立文楽劇場小ホール

「第十八回はなやぐらの会」四月五日(日)

紀尾井小ホール

【普及】

義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室

二月十一日(火祝) 芸能花伝舎

講師 竹本越孝・鶴澤駒治

四月十八日(土)

豊川稲荷文化会館

講師 竹本越孝・鶴澤三寿々

文化庁委託事業義太夫教室

◆第七二期義太夫教室

実践コース(後期)

一月十一日～三月二一日(週一日

・土曜) 豊川稲荷文化会館

(卒業発表会・OB会) 三月二一日

(土) 文化シヤッターBXホール

◆第七三期義太夫教室

入門コース

五月九日～七月十八日(週一日

・土曜)

豊川稲荷文化会館

講師 竹本越孝・鶴澤三寿々

■寄付・寄贈■

左記のご寄付ご寄贈を頂戴いたしました。
誠に有難うございました。

鹿島和美様 五万円(平成三十一年四月)

日本素義会様 五万円(令和元年八月)

石山岩男様 三万円(令和元年十月)

田村進一様 竹本土佐廣・越道・駒之助公演

記録一式(令和元年十月)

竹本越孝 十万円(令和元年十一月)

会報編集委員／鶴澤寛也・竹本佳之助
鶴澤賀寿・竹本駒佳・竹本越里

令和2年女流義太夫演奏会 公演予定		
日 時	会場	開演時間
1月20日(月)	お江戸日本橋亭	19時
2月24日(月祝)	紀尾井小ホール	13時30分
3月20日(金祝)	お江戸日本橋亭	13時30分
4月20日(月)	お江戸日本橋亭	19時
5月20日(水)	お江戸日本橋亭	19時
6月28日(日)	国立演芸場	未定
7月20日(月)	お江戸日本橋亭	19時
8月20日(木)	お江戸日本橋亭	19時
9月20日(日)	お江戸日本橋亭	13時30分
10月20日(火)	お江戸日本橋亭	19時
11月20日(金)	お江戸日本橋亭	19時
12月20日(日)	紀尾井小ホール	13時30分

酒処
押上文庫

〒131-0045
東京都墨田区押上3-10-9
Tokyo Skytreeから徒歩8分!
TEL: 03-3617-7471
E-mail: oshiagebunco@gmail.com

ぎだゆう座 豆まき

《ぎだゆう座2月公演にて》

令和2年2月1日(土)2日(日)

午後7時開演 お江戸上野広小路亭

演奏は「お姫様特集」

1日

『恋女房染分手綱』

道中双六の段・重の井子別れの段

2日

『妹背山婦女庭訓』姫戻りの段

『玉藻前囃袂』道春館の段

義太夫用三味線・張替・水牛駒・見台・湯呑、
制作修理 その他、各流三味線及び付属品
の御注文承ります。

きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687
kimura-wanoshirabe@nifty.com

西料理
客

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂四-二-一
TEL/FAX 03(3260)5011

謹賀新年

あけましておめでとうございます

日本素義会

第112回 令和2年5月9日(土)開催

新加入大歓迎! ふるってご参加ください

詳細は菅野昌行まで

竹本綱昇 女流義太夫ゆかりのビル



神楽坂
つなしょうテラス
TSUNASHO TERRACE

焼鶏 ワイン
3階 うぐいす

懷石 日本酒
2階 ふしきの

ビストロ ワイン
1階 レ・ピコロ



竹本綱昇(たけもとつなしょう)
昭和期人気の女流義太夫界で活躍。
建物入り口には、竹本綱昇の足跡と
女流義太夫の歴史を記した記念碑が
あります。ぜひご覧ください。

JR・地下鉄「飯田橋」駅下車 徒歩5分

東京都新宿区神楽坂4-3-11 神楽坂つなしょうテラス



地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

取締役会長	渡辺 康成
代表取締役	渡辺 貞穂
常務取締役	高山 早苗

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684